組織部主催　医院継承セミナー

継承の課題と具体的な手続きを解説

協会組織部は1月21日、講習会「医院継承セミナー～医院経営のいま、そしてこれから～」を開催し、25人が参加した。講師には、牟田修氏（エニータイムヘルスケアコンサルティング株式会社）と杉谷孝史氏（R&Tメディカル株式会社）を招き、それぞれ歯科医療をとりまく環境の解説と、継承・廃業・開業の注意点についてアドバイスを受けた。

牟田氏は、超高齢社会が目前に迫りサービス業・医療・福祉分野が人材不足になっていく中で、開業医の高齢化を背景に後継者不足も深刻になっている状況を示した。帝国データバンクの調査（2019年）でも後継者がいない診療所の比率は85％と示され、全業種平均65％を大きく上回っている。

事業継承の課題として、売り手側には、急な病気などで廃院・休止となるケース、息子・娘が後を継がないケース、患者がいて辞められない、後継者を探す方法もなく相談する相手もいない―などの課題がある。引き継ぐ側の課題では、売りたいタイミングと買いたいタイミングが合わない、譲渡希望価格が合わない、開業地が合わない、などの不一致があることを示し、売り手側・買い手側両者とも、交渉の雑用に振り回されたくない、医療法・保健所への対応が分からず面倒だという悩みを持っていることなど、相談を受けた経験を紹介した。

継承の注意点として、親子間継承でも契約書を書くこと、一度継承したら親は口を出さないこと、第3者継承では診療所の名称をどうするか、現院長時代の経営の方法と新しい院長下でやり方のギャップをどう埋めるかなどがポイントとなってくると助言した。

杉谷氏からは、診療所を閉院する時に必要な手続きや動産物の処分、テナントオーナーとの賃貸契約の解約や原状回復工事などについて具体的な解説があった。

協会、協同組合は継承の相談にも個別に応じている。

引き出しを増やして対応しよう

急変時の処置

組織部は1月21日に「引き出しを増やして対応しよう～歯科医院で遭遇する主訴や患者急変～」をテーマに講習会を開催した。講師は福田謙一氏（東京歯科大学教授）で57人が参加した。

福田氏は疼痛の分類やチェアー上での対応など図解を用いて解説した。疼痛については特に非歯原性の内容では咀嚼筋群の観察の仕方や判別分析法や触診のポイント、患者指導や対応などを写真や映像を用いて解説した。

特に急変時のBLSの流れについて、チェアー上での対応法の流れ（患者の頭位や脚の位置）などについても図解を交えての解説は、改めて自院でのやり方を見直す機会になった。

全身状態の簡易な把握に、パルスオキシメーターの活用を強く勧めており、受付での問診票記入とともに測定をする必要性を改めて感じた。

質疑応答では、アナフィラキシーショックと迷走神経反射によるショックの違いについて解説。血圧の低下と心拍数の減少は迷走神経反射による ショックとなる点を強調していた。

（小林裕次郎）

2023年分確定申告にあたって

確定申告の時期が訪れました。昨年一年間の事業活動を振り返ると、物価高騰という厳しい経営環境のなかで会員一人ひとりが懸命に診療所を維持してきたことと思います。地域医療の要として診療に携わる皆さまに敬意を表します。

さて、年明けから能登半島地震に見舞われました。被災地の皆さまには一刻も早い復旧・復興を願うばかりです。112兆円に上る来年度予算や補正予算も含め、被災地に十分な復興資金が手当てされることを切に望みます。

税務行政に目を向ければ、インボイス制度や電子帳簿保存法の実施、マイナンバーカードの取得「強制」など対応を迫られる事態が相次いでいます。国民には徴税強化を図る一方で、自民党議員は裏金づくりに勤しみ、濡れ手で粟のごとく政治資金から自分に還流していたことが明らかになりました。

税金の使い方では、沖縄の辺野古の米軍基地建設をめぐりマヨネーズ状の軟弱地盤工事に底なしの予算をつぎ込んでいます。大阪の夢洲万博・IRではインフラ整備や土壌改良に当初計画を大幅に上回る費用を投入するなど、放漫財政は目に余ります。

このような政権を選んだ国民にも責任があります。今年は被災地の復興・国民の生活を最優先に考える政治に転換してほしいものです。確定申告を機に自分たちの税金の使途を厳しく監視していきましょう。

談　話

税金の使途を監視しよう

経税部長　冨本昌之

確定申告　個別相談会のご案内

期　間　2月29日(木)～3月13日(水)

時間帯　相談者ごとに2時間
事前予約制です
①10時～ ②13時～ ③15時～

ご予約はお電話で協会(06-6568-7731)まで

※医業以外の所得（不動産、譲渡等）がある場合は、必ずお申し出ください。
会　場　保険医会館3階会議室
担　当　協会医業税理士団
※持参していただく資料等については電話予約時にお伝えします。
※マイナンバーの記載された書類等の取り扱いはできませんので、ご持参されないようお願い致します。

かんたん web参加！　保団連研究会　交流サイト

各地の保険医協会が主催するウェブ研究会・講習会を他県の会員も参加･視聴できます。(事前登録が必要です)

当面のラインナップから（一部抜粋）

- 2月7日　顎関節症はこうして治す。―運動療法・スプリント療法入門―／田口望氏（(医)田口歯科医院（愛知県江南市））
- 2月16日　歯科特別研究会「訪問診療の特殊性と全身管理の要点」／深山治久氏（東京医科歯科大学名誉教授）
- 2月29日　薬剤関連顎骨壊死（MRONJ）update／廣田誠氏（横浜市立大学附属市民総合医療センター歯科・口腔外科・矯正歯科准教授部長）

おおさか医科・歯科九条の会市民講座に参加して

女性の力活かし戦争終結を

世話人・中村新太郎（理事）

おおさか医科・歯科九条の会は1月14日、「沖縄・ウクライナ2つの現場から」と題して、音楽と講演の市民公開講座を開催した。参加者は51人。川口真由美氏（シンガーソングライター）がギター演奏と歌を披露。玉本英子氏（アジア・プレス所属／ジャーナリスト）が講演した。参加した中村新太郎理事から感想を寄せてもらった。

ウクライナでは7万人が亡くなっているという。ロシア兵にも多くの犠牲が出ており、ロシア兵の母親の会も動員解除、戦争やめよと訴えている。

川口氏は78年前の敗戦を歌った「戦争の家」、パレスチナでは死んだ赤ちゃんを埋葬し喪に服す時間さえ無くなっている惨状を歌った「苦いコーヒーと甘いデーツ」、日本は総理の息子や元総理の葬儀、在日米軍にも多額の税金を使うが、国民福祉にはケチをつけると歌った「一般庶民は自助、大金持ちは公助」などを演奏。最後に平和と自由を求め力を合わせて生きていこうという励ましの歌「ケサラ」で締めくくった。玉本氏は、ウクライナ北部のキーウ、中部のウマニ、南部で黒海に近いオデーサなど各都市で昨年春～夏にかけて取材した様子を紹介。「ウクライナ国民にもロシア兵にも母親がおり、みな母親から生まれた。悲しむ子どもを出さないために戦争をはじめない努力が重要だ」と語っていた。

戦争を終わらせるには、命こそがなにより大切だという根本的なことを、いつでも忘れず、訴えることができる女性たちの声が活かされる必要があると思った。女性たちの力を集め、戦争を終わらせる力を大きくしたい。

右・講演する玉本氏、左・演奏する川口氏

賛同者募集中

おおさか医科・歯科九条の会の賛同者を募集しています。同会は2006年2月に発足しました。戦争放棄・戦力不保持を定めた日本国憲法第9条を守るために、立場の違いをこえて、大阪府内の医療関係者などで構成しています。賛同者には企画の案内などを郵送します。問い合わせはおおさか医科・歯科九条の会事務局TEL06-6568-7731まで。

会費無料